

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-25460

(43) 公開日 平成9年(1997)1月28日

(51) Int. Cl.⁶
C09J 7/02識別記号 庁内整理番号
J J D
J J J
J L AF I
C09J 7/02

技術表示箇所

J J D
J J J
J L A

審査請求 未請求 請求項の数3 F D (全4頁)

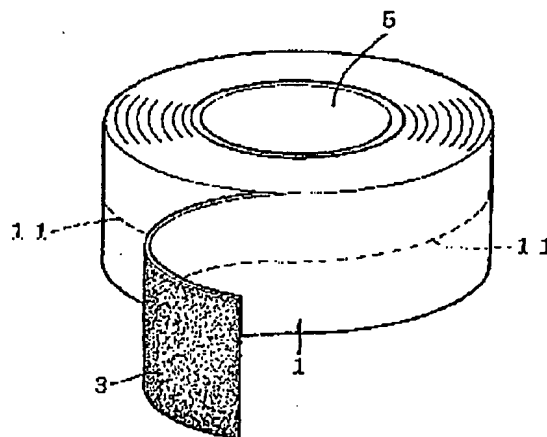
(21) 出願番号 特願平7-199090
(22) 出願日 平成7年(1995)7月11日(71) 出願人 595112513
株式会社山本工業所
静岡県静岡市みずほ3丁目2番地の13
(72) 発明者 山本 孝
静岡県静岡市豊田1丁目5-6-6
(74) 代理人 弁理士 長野 光宏

(54) 【発明の名称】 粘着テープ

(57) 【要約】

【課題】 粘着テープを被着体に張り付けた後、該粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から該粘着テープの長さ方向に引き剥がすこと、あるいは粘着テープを被着体に張り付ける前に、該粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から該粘着テープの長さ方向に切除することができるとした粘着テープを提供する。

【解決手段】 支持体の片面に粘着剤を塗工し、これをロール状に巻き付けてなる粘着テープにおいて、該支持体にはその長さ方向にミシン目を形成したことを特徴とする粘着テープ。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 支持体の片面に粘着剤を塗工し、これをロール状に巻き付けてなる粘着テープにおいて、該支持体にはその長さ方向に1本のミシン目を形成したことを特徴とする粘着テープ。

【請求項2】 支持体の片面に粘着剤を塗工し、これをロール状に巻き付けてなる粘着テープにおいて、該支持体にはその長さ方向に複数本のミシン目を形成したことを特徴とする粘着テープ。

【請求項3】 前記支持体におけるミシン目により区画された各構成部にそれぞれ各別の色を付けたことを特徴とする請求項1又は2の粘着テープ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は粘着テープに関するものである。

【0002】

【従来技術】粘着テープとしては、支持体の片面に粘着剤を塗工し、これをロール状に巻き付けてなるものが従来より広く使用されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記従来技術の粘着テープにおいては、これを被着体に張り付けた後、該粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から該粘着テープの長さ方向に引き剥がすことはできない。また、上記従来技術の粘着テープにおいては、これを被着体に張り付ける前に、該粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から該粘着テープの長さ方向に切除することはハサミ等の切断具を用いにくい限り極めて困難である。しかるに、粘着テープにおいては、これを被着体に張り付けた後、該粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から該粘着テープの長さ方向に引き剥がすこと、あるいは被着体に張り付ける前に、該粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から該粘着テープの長さ方向に切除することが望まれる場合もある。そこで、本発明は、粘着テープを被着体に張り付けた後、該粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から該粘着テープの長さ方向に引き剥がすこと、あるいは粘着テープを被着体に張り付ける前に、該粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から該粘着テープの長さ方向に切除することができるようにした粘着テープを提供しようとしてなされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、本発明は、支持体の片面に粘着剤を塗工し、これをロール状に巻き付けてなる粘着テープにおいて、該支持体にはその長さ方向に1本のミシン目を形成したことを特徴とする粘着テープ（請求項1）を提供するものである。

【0005】また、本発明は、支持体の片面に粘着剤を塗工し、これをロール状に巻き付けてなる粘着テープに

において、該支持体にはその長さ方向に複数本のミシン目を形成したことを特徴とする粘着テープ（請求項2）をも提供するものである。

【0006】前記支持体におけるミシン目により区画された各構成部にそれぞれ各別の色を付けてもよい。（請求項3）

【0007】

【作用】本発明による粘着テープにおける支持体にはその長さ方向にミシン目が形成されている。従って、粘着テープを被着体に張り付けた後においては、粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から、当該ミシン目に沿って、粘着テープの長さ方向に容易に引き剥がすことができる。また、粘着テープを被着体に張り付ける前に、粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から、当該ミシン目に沿って、粘着テープの長さ方向に容易に切除することもできる。支持体におけるミシン目により区画された各構成部にそれぞれ各別の色を付けたときには、各構成部を色により識別することができるため、使い勝手が向上する。

【0008】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の形態を添付図面に従って説明する。本発明による粘着テープは、従来の粘着テープと同様に、支持体1の片面に粘着剤3を塗工し、これを巻芯5を用いてロール状に巻き付けてなるものである。支持体1は紙、布、合成樹脂フィルム等により形成する。粘着剤3は熱可塑性粘着剤であっても熱硬化性粘着剤であってもよい。図6における符号7は剥離剤、符号9は下塗剤である。

【0009】しかし、本発明においては、支持体1にはその長さ方向にミシン目11を形成する。ミシン目11は支持体1に1本形成してもよいが、支持体1に複数本形成してもよい。図2においては、支持体1の中央部にミシン目11を1本形成している。即ち、この事例においては、支持体1は、中央部のミシン目11により、同一幅の構成部1a、1bに区画される。支持体1にミシン目11を1本形成する場合、ミシン目11は必ずしも支持体の中央部に形成する必要はない。即ち、ミシン目11は図3に示すように支持体1における一方の縁に偏った位置に形成しても差し支えない。この事例においては、支持体1は、ミシン目11により、異なる幅の構成部1c、1dに区画される。

【0010】図4においては、支持体1に2本のミシン目11、11が形成されている。即ち、支持体1は、ミシン目11により、構成部1e、1f、1gに区画される。この場合にも、ミシン目11、11は必ずしも等間隔で支持体1に形成する必要はない。各構成部1e、1f、1gはそれぞれ適当な位置13、16、17にてカットして使用してもよい。

【0011】図5においては、支持体1におけるミシン目11、11により区画された各構成部1e、1f、1

gにそれぞれ各別の色を付けて各構成部1e、1f、1gの色分けを行なっている。

【0012】

【実施例】本発明による粘着テープは、教育用、塗装作業におけるマスキング用等種々の用途に使用することができるのであるが、図7はその使用例を示す。即ち、図7においては、本発明による粘着テープは、外壁用ないし内装用のパネル21の目地にコーキング材23を充填する際に、養生シート固定用テープとして使用される。この事例において、パネル21の目地にコーキング材23を充填する際には、まずパネル21の表面にパネル21を保護するための養生シート25を当て、該養生シート25の縁部を図2に示す如く支持体1の長さ方向に1本のミシン目11を備えた粘着テープ27により固定する。このとき、養生シート25の縁が粘着テープ27における養生シート25側の構成部1bのみにより固定されるようになる。続いて、該粘着テープ27における目地側の構成部1aをミシン目11に沿って引き剥がし、該構成部1aが存在した位置に該構成部1aに代えてコーキング用養生テープを貼着する。この状態でパネル21の目地にコーキング材23を充填するのである。因みに、養生シート固定用テープとしての粘着テープ27はパネル21と相当の厚みを有する養生シート25とに接合しているため、該粘着テープ27の目地側縁が直線状にならない。そこで、粘着テープ27における目地側の構成部1aをミシン目11に沿って引き剥がし、該構成部1aが存在した位置にコーキング用養生テープを貼着するのである。このコーキング用養生テープはパネル21にのみ接合し、養生シート25には接合していないため、該コーキング用養生テープの目地側縁は完全な直線状となるのである。従って、この状態でパネル21の目地にコーキング材23を充填したときには、パネル21の目地側縁は直線状にマスキングされる。

【0013】

【発明の効果】以上説明したように、本発明による粘着テープにおける支持体にはその長さ方向にミシン目が形成されている。従って、粘着テープを被着体に張り付けた後においては、粘着テープの幅の一部のみを幅の残部から、当該ミシン目に沿って、粘着テープの長さ方向に容易に引き剥がすことができる。また、粘着テープを被着体に張り付ける前に、粘着テープの幅の一部のみを幅

の残部から、当該ミシン目に沿って、粘着テープの長さ方向に容易に剥除することもできる。支持体におけるミシン目により区画された各構成部にそれぞれ各別の色を付けたときには、各構成部を色により識別することができるため、本発明による粘着テープは使い勝手が向上し、特に教材としての使用に適したものとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による粘着テープの一例を示す斜視図である。

【図2】同上粘着テープを示す別の斜視図である。

【図3】本発明による粘着テープの別の一例を示す斜視図である。

【図4】本発明による粘着テープの更に別の一例を示す斜視図である。

【図5】本発明による粘着テープの更に別の一例を示す斜視図である。

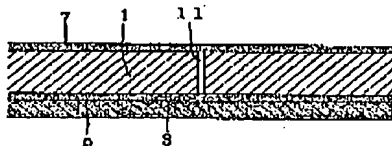
【図6】本発明による粘着テープの断面図である。

【図7】本発明による粘着テープの使用状態の一例を示す断面図である。

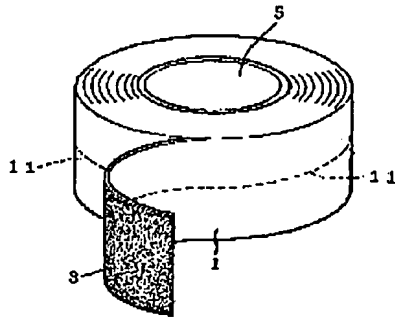
【符号の説明】

- 1 支持体
- 1a 構成部
- 1b 構成部
- 1c 構成部
- 1d 構成部
- 1e 構成部
- 1f 構成部
- 1g 構成部
- 3 粘着剤
- 5 巻芯
- 7 剥離剤
- 9 下塗剤
- 11 ミシン目
- 13 位置
- 15 位置
- 17 位置
- 21 パネル
- 23 コーキング材
- 25 養生シート
- 27 粘着テープ

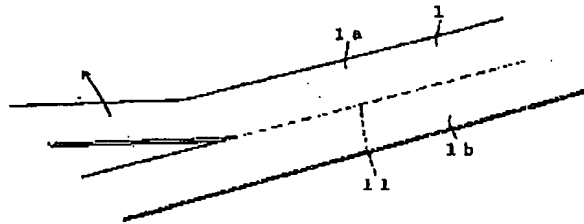
【図6】



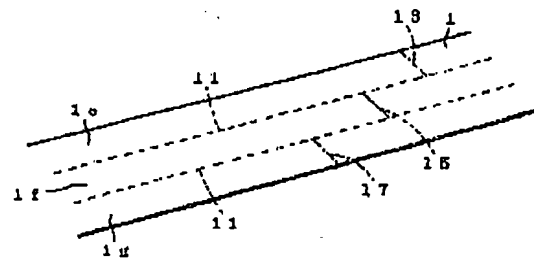
【图1】



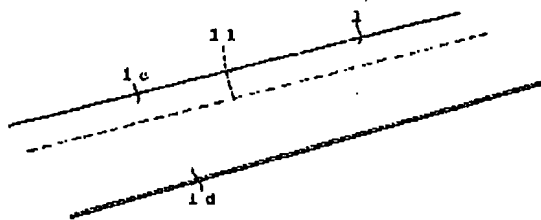
【图2】



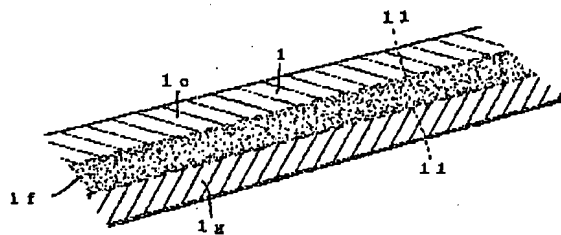
【图4】



【图3】



【图5】



【图7】

